

6 中村元『ブッダの生涯』講読

【全6回】／開催方法：現地

清水谷善 晓

特定非営利活動法人
中村元記念館東洋思想
文化研究所理事
公益財団法人中村元
東方研究所非常勤研究員



受講料

会員料金: ¥10,600 早割価格: ¥9,600 (納入期限: 5月13日)

【日 程】 【全6回】 1回／月 第3週木曜日
(5/20、6/17、7/15、10/21、11/18、12/16)

【時 間】 15:20～16:50

■受講に必要なもの (講義までにご用意ください)

[テキスト] [講義までにご購入ください。]

書名: ブッダの生涯 著者: 中村元 出版社: 岩波書店 出版年: 2017

昭和60（1985）年4月から9月にかけて、NHKラジオ第二放送で中村元先生によって行われた全26回にわたる連続講義「こころをよむ／仏典」の活字化された「仏典をよむ」シリーズが、平成29（2017）年に岩波現代文庫から新たに出版されました。これにより、本シリーズの入手がより容易になりました。

本講義では、その「仏典をよむ」シリーズの第1巻に当たる『ブッダの生涯』を講読していきます。本年度は、第5回 ブッダ最後の旅—『大パリニッパーナ経』の途中から再開いたします。

なお、講義初回は前年度読み進めたところまでの解説も行いますので、今年度から受講希望される方もご安心ください。

なお、研究会員（受講者）には『ブッダの生涯』（岩波現代文庫）を購入していただく必要があります。

【参考書】

①書名: ブッダ入門〈新装版〉著者: 中村元 出版社: 春秋社 出版年: 2011

②書名: ゴータマ・ブッダ上・中・下〈普及版〉著者: 中村元 出版社: 春秋社 出版年: 2012

7 ラフカディオ・ハーンの怪談再考 —「耳なし芳一」「雪女」を中心に— 【全6回】／開催方法：現地

横山純子

島根大学ラフカディオ・
ハーン研究会事務局長
中村元記念館東洋思想
文化研究所研究員



受講料

会員料金: ¥10,600 早割価格: ¥9,600 (納入期限: 5月23日)

【日 程】 【全6回】 1回／月 第3・4・5週日曜日
(5/30、6/20、7/18、10/17、11/28、12/19)

【時 間】 10:30～12:00

■受講に必要なもの

[テキスト] レジュメ配布

これまでの講座では次のようなことを行った。2017年度はラフカディオ・ハーン（Lafcadio Hearn, 1850—1904）の『日本瞥見記』（Glimpses of unfamiliar Japan）の作品に焦点をあてて、その表現について考察した。2018年度は来日前のハーンがアメリカ時代に書いた小説、1889年出版の『チタ』（Chita）と1890年出版の『ユーマ』（Youma）を取り上げ、ハーンの作家としての思いやその作品について考察した。そして2019年度はハーンの作品に見られる宗教や異界に対する思いを考察し、2020年度はさらにハーンが本格的に仏教の涅槃について述べている作品、1897年に出版された Gleanings in Buddha-Fields (『仏の畠の落穂』) に所収された “Nirvana —A Study in Synthetic Buddhism” (『涅槃—総合的な仏教研究』) を読んだ。

“Nirvana—A Study in Synthetic Buddhism” の最後の言葉は “the outer-man is the ghost.” である。この場合の “ghost” (『幽霊』) は目に見えないものという意味で使われていると思うが、ハーンはその目に見えない異界の世界に幼い頃より興味を持っていた。今年度は異界をハーンが描き出した怪談を取り上げたい。怪談の中でよく知られているのがハーンの好きな「耳なし芳一」と「雪女」である。「耳なし芳一」と「雪女」等は訳されたり、朗読されたり、劇や映画になったりしている。今回は作品の創作過程だけでなく、作品が成立後どのような影響をもたらしていくのかも考えてみたい。これらの作品を中心にその作品の成立過程や作品の表現について探り、またその作品がどのように受容され、影響していったのかを通して作品の意味について考察してみたいと思う。